令和6年生駒市教育委員会第4回定例会会議録

1 日 時 令和6年4月22日(月) 午後3時00分～午後4時26分

2 場 所 生駒市役所 401・402会議室

3 審査事項

- (1) 報告3号 令和6年生駒市議会第1回(3月)定例会提出議案の結果について
- (2) 報告4号 人事異動の総括について
- (3) 議案第15号 生駒市教科用図書選定懇話会の開催について
- (4) 議案第16号 令和6年度第3次生駒市教育大綱アクションプランの策定について

4 教育委員会出席者

教育長	原 井 葉 子		
委員(教育長職務代理者)	飯 島 敏 文	委 員	レイノルズあい
委員	中 川 義 三	委 員	吉 尾 典 子

5 事務局職員出席者

教育 部長	鋏 田 明 年	生涯学習部長	坂 谷 操
教育部次長	松 田 悟	教育総務課長	山 本 英 樹
教育指導課長	花 山 浩 一	幼保こども園課長	大 畑 勝 士
幼保こども園課指導主事	長 崎 文	幼保こども園課指導主事	牧 野 由 美
児童総務課長	武 元 一 真	生涯学習課長	井 川 啓 一 郎
図書館館長	西 野 貴 子	スポーツ振興課長	西 政 仁
教育総務課課長補佐	松 田 美 奈 子	学校給食センター所長	桐 坂 昇 司
教育指導課課長補佐	中 田 博 久	教育政策室長	三 室 哲 哉
こども園準備室長	小 林 奈 津 子	図書館南分館長	中 川 公 子
図書館南分館長	谷 江 真 美 子	生駒駅前図書室長	入 井 知 子
スポーツ振興課課長補佐	大 畑 由 紀	教育総務課(書記)	吉 川 優 香
教育総務課(書記)	寺 川 寧 々		

6 傍聴者 0名

午後3時00分 開会

○開会宣告

○日程第1 前回会議録の承認

○日程第2 教育長報告

・教育委員会事務局職員の挨拶について、鍬田教育部長から説明
(質疑)なし

・校長・教頭・園長・副園長の挨拶について、鍬田教育部長から説明
(質疑)なし

○日程第3 報告3号 令和6年生駒市議会第1回(3月)定例会提出議案の結果について

・令和6年生駒市議会第1回(3月)定例会提出議案の結果について、山本教育総務課長から説明

<参照:議案書p1>

(質疑)なし

審議結果 【報告のとおり承認】

○日程第4 報告4号 人事異動の総括について

・人事異動の総括について、山本教育総務課長から説明

<参照:議案書p2~3、資料1、資料2>

(質疑)

飯島委員:退職者が30名、採用が19名である。小中学校の異動は転入の方が多かったようだが、幼稚園・保育園についても転入の方が多く、トータルの人員は変わっていないという理解でよろしいか。

山本課長:記載している採用の数が間違っている。退職者に対して新規採用職員はほぼ同数が入っているはずなので、小中学校については人数の増減はないと思う。

飯島委員:転入が多かった訳ではなく、採用も退職もほぼ同じ数と理解してよろしいか。

山本課長:生駒市は人気があり、生駒市に行きたいと希望する方が多いと聞いている。そのような理由から、生駒市から出す人数より多く入ってきたという状況である。

原井教育長:記載の人数には講師や再任用の職員を含まず、正規の教員のみである。そのため、任用の方が多くなる。

吉尾委員：新しい大綱とアクションプランが6年度からスタートし、令和の教育や様々な違う形の教育もどんどん進んでいこう。定数は満たされた状況か。欠員はない状態でスタートできているか

山本課長：教員については、小学校の市費講師が1名と、中学校の県費講師が2名不足した状態で4月をスタートした。

吉尾委員：自分が想像したよりは比較的不足が少なくスタートできているので少し良かったと思うが、足りないのは事実なので、またご努力いただかないといけないと思う。市外からの管理職や昇格している方もいると思う。学校が元気で明るく楽しくなるように管理職の先生方には努めていただきたい。機会があればその旨伝えていただけたらと思う。

中川委員：中学校の2名の不足について、私も現職のときに技術家庭の先生が足りないことがあり、教育委員会にお願いしたことがある。教科によって不足しやすい傾向があるのか聞きたい。

山本課長：おっしゃるとおり、技術専門課程いわゆる実技課程のところで不足が続いている。幸い今年度の生駒市は何とか入れることができた。今回足りなかった教科は理科と社会で、社会については3月末に突然休職の申請があったため4月までに探しきれなかった。県全体としては数学と理科が不足していたと聞いている。

中川委員：急な事がある中、不足がこの人数で済んでいるというのは他市町村と比べるとよく頑張っていると思う。引き続きお願いしたい。

審議結果 【報告のとおり承認】

○日程第5 議案第15号 生駒市教科用図書選定懇話会の開催について

・生駒市教科用図書選定懇話会の開催について、花山教育指導課長から説明

<参照：議案書p4、資料3>

(質疑)なし

審議結果 【原案のとおり可決】

○日程第6 議案第16号 令和6年度第3次生駒市教育大綱アクションプランの策定について

・令和6年度第3次生駒市教育大綱アクションプランの策定について、鋤田教育部長から説明

<参照：議案書p5、別冊1>

(質疑)

原井教育長：アクションプランについては、まず基礎となる第3次生駒市教育大綱の策定をもって決定する必要がある。第3次生駒市教育大綱については、現在パ

ブリックコメントを実施しており、次の5月の総合教育会議で最終決定となる。本日は参考意見や改良点を出していただき、次までの継続審議としたいと思っている。委員の皆様方から様々なご意見をいただけたらと思っている。

中川委員：第2次と比べて非常に様々な取組があり、特にそれぞれの取組で数値や文言での細かい目標の記載が増え、大変分かりやすくなった。それぞれの取組が止まっていることがないというのが分かる。今後も大変だと思うが、例えば令和7年度より令和8年度の何が良くなったのか、良くしようと思っているのかということを示すだけでもいいので分かる形で掲載していただければと思う。スクラップアンドビルドということで、終わってしまった事業はスクラップしていくことも大事なので、それについても検討いただければ、より良い。

原井教育長：年度ごとの進捗が分かりやすくなったとのこと。目標値/実績値という部分が一つの指標になっていると思う。今の内容に関連することで何かご意見等あるか。この部分は今後もこのような表示方で続けていくということによろしいか。

中川委員：例えば32ページの上の段について、令和7年度・8年度までは3つの項目に注視していくが、9年度については下の2つの項目は達成されていると思う。どの項目が進んでいくのか進んでいかないのかが分かるように、このような矢印でもいいので表示した方が良いと思う。下の数値にすればもちろん31ページ上段でも、目標値を3校4校5校と徐々に増やして表示している。このように言葉でも矢印でも良いので、この年度は前年度と違うここに注力するということが分かるように進めていただけたらと思う。

原井教育長：目標名と目標値については、入っている事業と入っていない事業があるが、出来るだけ可視化していきたいので入れてほしいと私自身思っている。入れられないものも確かにあると思うがどうか。

飯島委員：目標値を入れているところは良いと思うが、例えば年度ごとに開催数や人数が増えていくような目標の量的な拡大をする目標の場合と、それから質的に高めて深めていくというような内容の場合があると思う。現計画ではいずれも赤い矢印で書いてあるので、量的な拡大を目指す場合と質的な充実を目指す場合の区別が分かりにくいような気がしている。赤色は目立つので、赤い矢印が同じ方向に横向きに入っていると全て現状維持の様に見えてしまう。量的な拡大あるいは質的な充実を目指すということが分かるような書き方を検討してほしい。

原井教育長：例えば量的なものであれば、矢印が付いていてもその下の目標値/実績値で、量として可視化できる。質的な目標値/実績値で表せないことは、取組内容のところで表現を変えていくということによろしいか。どちらかで変化を可

視化できるように表現を変えてほしいということによろしいか。事務局はそれで対応できるか。

鎌田部長：中川委員がおっしゃった目標値を入れて経過を分かりやすくという点も、飯島委員がおっしゃった量的な充実を目指すものなのか質的な充実を目指すものなのかという点は、今作っている大綱をもとに作っているのでこのスタイルは継続していかなければならないと思う。アクションプランの策定までは時間があるので、分かりやすい資料になるように改良検討をする。

原井教育長：来月の教育委員会までの間に、それぞれの担当課で検討していただくということをお願いしたい。それ以外に何かご質問ご意見等あるか。

イルズ委員：再掲という形で、全く同じ内容のものが何回か出てくるところがある。説明をお願いしたい。

原井教育長：再掲の記載についてはここで論議していただきたい内容である。事務局から説明はあるか。

井川課長：生涯学習部で所管している事業に再掲が多い。新たな教育大綱の枠組みは、「人」「地域」「環境」という視点で再編されているが、生涯学習部で所管している事業は「人」「地域」どちらにも関わるものが多い。教育大綱での文言に関しては基本方針②に寄せてはいるものの内容としては①に関わる部分も少なからずあるため、アクションプランについては再掲という形で書かせていただいた。ただご指摘のように非常に煩雑になろうかと思うので、ご意見いただきたい。地域づくりだけでなく、個人の成長という部分も非常に大事な視点として事業を行っていくという思いである。

原井教育長：両方の考え方に通ずるところがあるということで再掲を残しておくか、より強く繋がる方を選ぶか、ご意見いただきたい。

イルズ委員：それに関しては改めてまた見させていただきたい。4ページの「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を目指す授業改善の支援について、学びを提供する先生方の研修を充実化していくことを目標としており、それも大事なことであると思うが、個別最適な学びについてはAIも有効なツールであると思う。昨年AI学習ドリルの導入が検討され、試験的に導入されたかと思う。これについて、今後どのように発展させるのか、予定があればお聞きしたい。

花山課長：これまでAIドリルを検討して効果的であったことが分かっている。検証していたもの以外にもAI学習できるものが数社出ているので、今後もトライアルという形で継続して希望する学校で行っている。令和7年度にはネクストギガということで、子どもたちの新しい端末の共同調達を県域で行う。その際にどのようなAI学習アプリが入るのかによって方向性が変わるので、現在はその時に向けて検証を続けている。

イルズ委員：アクションプランとして掲げる事業ではなく、継続的に検証を続けていく事業ということであるか。

原井教育長：今の段階では記載していないが、令和7年度以降で1つの指標としてアクションプランに記載する可能性はあるということか。

花山課長：その通りである。

イノズ委員：伴走型研修について、すでに実施しているのか、こういった内容か、また、小中両方の先生が対象になるのか等の概要を教えてください。

三室室長：どのような研修が先生にとって効果があるのかを見定めつつ、現在それをしていただける方をリストアップしているところである。対象者については、教育委員会から指名するのではなく、先生自身が参加したい研修に参加をしていただき、初回研修後は参加者による追加の質問やその後の相談などを適宜、研修講師に相談できるような伴走型の研修を考えている。

イノズ委員：目標値の人数について、市内小中20校の内1校1人の計算であれば、もう少し欲しいように思うが、まずは取組みながらどのように広げていけるのかを検証していただきたい。

原井教育長：これは参加を希望する先生が増えていく事を想定している。

花山課長：働き方改革等の政策室が進める事業と連動し、先生方の研修に参加できる時間を確保しながら計画を立てているので、まずは20名から少しずつ増やしていく考えである。アクションプランは毎年度見直していく。

イノズ委員：9ページの「デジタルシティズンシップ教育の推進」について、2点質問がある。まず、目標値が自己評価で何パーセントであるかを掲げているが、この自己評価は先生方の自己評価になるのか。また、去年までは生徒たちが主体的に考えるスマホサミットの様な取組があった印象があるが、それも継続して行うのか、もしくは先生方の研修の方に力を入れていくのか。

花山課長：まず目標値については、児童生徒へ意識が高まったかどうかをアンケートしているので、それを継続していきたい。スマホサミットも継続していく。

イノズ委員：教職員と生徒と両方側からのアプローチがあるということか。

花山課長：その通りである。スマホサミットは子どもたちから色々な意見が出るように、生徒会交流会という形に変えている。こちらから話題を下ろすのではなく、自分たちで学校のあり方を考えて共有してもらうのが狙いである。

イノズ委員：13ページの「多様性を認め合う場の提供」について、今まではユニバーサルキャンプの実施があったが、今回アートワークショップが入っている。こういったものか教えてください。

井川課長：「インクルーシブワークショップ」について、障害のあるなしに関わらず全ての人と一緒にアート作品を制作するという事を複数回ワークショップ形式でやっていくものである。秋頃の開催を目指し、これから事業者の選定等を行っていく。これを通して互いの違いを理解し合うことや、多様性を認めあう意識の醸成に繋げていくというような効果を期待している。

イノズ委員：表現や個性が光るところで、多様性が目に見えて分かりやすいので楽しみにしている。これから開催する内容なので、目標値より質的の充実を目指して

いく方が先であると思うが、開催回数や参加人数の目標をもし入れられるのであればさらに良いかと思う。また、16ページ「歴史・伝統文化の学びの場の提供と発信」の目標値について、高山竹林園の茶道体験や出前授業など、生駒の伝統文化に触れる大事な取組であるが、目標値がないのが残念である。ぜひこちらも数字を掲げてやっていただきたい。それと21ページ「高齢者の学びを「行動」につなげられる仕組みづくり」について、こちらも以前からあった事業であるが、目標値/実績値が令和6年から令和9年と続けて1件となっている。増やしていくのは難しいか。

井川 課長：「高齢者の学びを「行動」につなげられる仕組みづくり」については、新たな取組が生まれた件数を目標値としており、1件ずつでもチャレンジな数字だと思っている。新しい取組を進めていくというのは相手が必要で、実施先の開拓のこともあり、調整も含めて大変なところもある。まずは一步一步広げていくという考えである。

イノズ 委員：29ページ「小中学校施設の計画的な大規模改修事業」について、令和6年度と7年度は大規模改修工事を挙げているが、上中以外は予定にないのか。

山本 課長：大規模改修は長寿命化のための改修になる。上中には校舎が3棟あるが、1棟だけでも3億ほどかかる見込みであるので計画的にやらなければならない。この4年間の計画に入るのが上中しかない。

原井教育長：全体の改修計画は別にある。

イノズ 委員：35ページ「困難を抱える子ども・若者に対する支援の充実」について、昨年度の目標値は120だった。困難を抱える方が減ったということであれば良いが、これについて教えて欲しい。

井川 課長：これまで記載していたのは相談者全体の実人数であるが、今年度からは新規相談者数を記載している。相談者全体では100人から120人程度で推移している。困難を抱える当事者の掘り起こしを進めていく必要があるが、まだまだ相談支援につなげられていない人も多いという問題意識があり、今回からこのような目標値とした。

イノズ 委員：今のところは以上であるが、全体をもう一度見直したい。先ほどの再掲の部分や目標の設定、質的なところをどう表現できるか後日提案したい。

吉尾 委員：私は基本方針の緑の部分の文言を頭に思い浮かべながら各事業を見ている。主体的に楽しく学ぶということを念頭に置くと、こちらからの事業の意図より、例えば対象が児童生徒ならば、児童生徒のどのような育ちを期待しているのか、どう主体的に動くような事業を目指すのかを事業の概要に挙げていただけたらありがたい。例えば4ページの教育・保育の質の向上のところ、不適切保育防止が挙げられているが、特に生駒市で不適切な保育があったなら、しっかりと共通理解していただくことは大事だと思う。主体的に生きていくための質の高い教育・保育とはどういうことなのかという視点で研修を実施していただけたらありがたい。もちろんその中には不適切保育の話も出

と思うが、教師自身も子どもたちも前を向いて歩いていきたくなるようなわくわく思えるアクションプランになれば良いと思っている。その基本方針からさらに「あらゆる世代主体的な学びの推進」というようにそれぞれ分かれており、非常に細かい。丸々一つの段落として捉えて読む方が読みやすい。また、再掲の記載について、門戸を広げてより達成する度合いの大きいものを取るべきなのか、ピンポイントにして事業が経過したタイミングで、向上した部分を振り返るイメージが良いのか迷っている。1つだけに押さえていただき、進んでいくうちに他の目標にもかかるといふ発見が生まれ、やり方や捉え方が変わることもあるだろう。まずは何が育ってほしいのか、何を目指しているのかを明確にすることが、1年目の事業のスタートとしてはいいのではないかと。実施してみてもうの方がより説得力があると思う。また、数値や回数、人数の話もあったが、例えば14ページ「いこま教育フォーラム」の目標値は2回とある。私も何回か参加しており、アクションプランの中にも学びを支える地域ということが大きく挙がっているので、保護者や地域住民の方には是非たくさん参加してほしいと思っている。例えばZoom開催にしたら、市外からも入ってもらえるだろうし、今後の教育を知ってもらえることになるだろう。そのあたりの参加人数的な数値も目標に入れてほしい。

原井教育長：4ページの不適切保育防止について、研修等の項目についてはまた担当課で内容を検討するというところでよろしいか。

(意見なし)

原井教育長：また、冒頭の大きく書かれているところに関しては、①②③と教育大綱がナンバリングをしているので、アクションプランにも同様にナンバリングをつけていくというところでよろしいか。

(意見なし)

原井教育長：それから目標値について、実施回数だけでなく参加人数や何を目指していくのかということの記載を再考いただきたい。さらに、再掲については吉尾委員から、散らばってしまうと分かりにくいので、まずは重きを置く箇所への記載のみで良いという意見について、他に意見はあるか。もし実施していく中で比重が変わるようであれば、また来年度以降見直していくということで、再掲はしないというところでよろしいか。

(意見なし)

飯島委員：先ほどの吉尾委員がおっしゃったことにも関わるが、教育大綱の中から重点化して取り上げるべき項目をアクションプランの中に掲示している。その中で例えば、36ページ『生駒市史』編さん事業に関わる各年度の取り組み内容は、史料集を2冊発行するとか、第1巻を発行するとか年度ごとの計画が立てやすいが、何をすべきかを明記しづらい目標もあると思う。年度末の評価の際に初年度に取り組んだことをさらに転化し、さらに質的

に充実させる取組もある一方で、弱点を発見し、その弱点を埋める形で2年目以降の取組が開始されるということもある。そのように振り返りながら取組むには、記述しづらい事業についても、初年度から具体的に言葉にするまでは求めないが、どういうところに焦点を当てて実施していくのかを意識して取り組めるような記載の方が良いと思う。4年間で成果を出すためには、そういう意識的な計画の記述の見直しが必要になってくる。アクションプランの策定の際にこのことをある程度意識して作っていただければありがたい。

原井教育長：P D C Aサイクルを十分に意識しながら作っていききたい。

吉尾委員：新規事業である、17ページ「市民との連携や「協創」のもと、まちづくりの拠点となる図書館づくり」の事業を非常に期待している。図書館は本を見るだけの場所ではなく交流も目的であり、地域に根付くことや地域の人たちが集う等、地域を巻き込んでいくところである。小中一貫校を作る上でもこれから非常に大事になると思うので、ぜひこの図書館づくりのところは期待している。

中川委員：31ページ「これからの時代の学校図書館のあり方の創造事業」について、学校がデジタル化していく中で、市の図書館等もデジタル化の中でどう変わっていくのかということがこれからの大きな課題だと思う。市の図書館も学校の図書館もどうデジタル化を取り入れていくかを考えていきたい。

原井教育長：この事業は、学校図書館のあり方というところで、デジタル化を進める話ではない。できるだけ多くの子どもたちが利用するような図書館づくりを進めるという司書さん視点の事業である。

原井教育長：これは継続審議とする。目標値、また目標とする項目をそれぞれ検討していただく。再掲をしていた事業に関して、主となる方を選ぶ。また、赤の矢印だけでなく、内容で経年目標を記載する。これらの点を、内容の検討も含めて事務局の方でもう一度加筆修正をお願いする。それとともに委員さんには、まだご意見いただけなかったこともあるかと思うので、5月7日を目処にメールでご意見いただくということによろしいか。

(意見なし)

審議結果 【原案のとおり可決】

○日程第7

・令和6年5月行事予定について、山本教育総務課長、井川生涯学習課長から説明(質疑)なし

・報告4号人事異動の総括についての補足

山本課長：先ほどの議案書3ページの人事異動の総括についての修正が分かったので報告したい。小学校の採用は13名で、これにより小学校の計は79名になる。中学校の採用は7名で、これにより中学校の計は31名となる。これに伴い、採用の合計については37名に変更となり、全体の合計が210名となる。訂正願いたい。

○閉会宣告

午後4時26分 閉会